清瀬と結核療養の関わりについて

1. 清瀬と結核療養の関わりについて

都心から２５km 圏内に位置しながら自然豊かな清瀬市は、地理的状況や環境が結核療養に適していたことから、まだ村であった１９３１(昭和６)年、東京府立清瀬病院（現在の独立行政法人国立病院機構東京病院）の開設を足掛かりに、戦後にかけて相次いで結核療養所（サナトリウム）が開設され、清瀬の名は「結核のまち」として全国に知られるところとなりました。サナトリウムや研究所は最終的に１５か所を数え、その多くは現在の市の南部に集積し、療養する患者は多いときで５千人を超えたとされています。

１９５１(昭和２６)年結核予防法の制定後、有効な治療法や薬の開発による患者の減少に伴い、療養所は呼吸器疾患をはじめ各種診療科目を持つ医療機関として、また、近年の高齢化に伴い介護福祉施設に移行するなど機能の転換を図るなかで、かつての「結核のまち」清瀬は、「医療・福祉のまち」へと変遷を遂げています。

2. 市内にある代表的な機関

結核療養を目的として清瀬に開設された機関のうち、統合や移行、廃院などにより現時点で残るものはおよそ半数ですが、市内には現在も結核治療を行うための医療機関と、結核分野で唯一の専門研究機関が存在し、国内外の結核対応に大きな貢献を果たしています。

独立行政法人国立病院機構東京病院

１９３１(昭和６)年東京府立清瀬病院として開設後、我が国における結核治療、医学研究の中心的役割を果たしてきました。１９６２(昭和３７)年に傷痍軍人東京療養所と統合後、現在も国立病院機構として、結核を含めた呼吸器疾患を中心とした政策医療分野の基幹施設として高度かつ専門性をもった医療、臨床研究の実施及び教育研修にも取り組んでいます。敷地内には、外気舎や当時の様子が書かれた標識など、結核療養所が存在した名残と共に後に伝えるモニュメントが設置されています。

［東京病院敷地内にある外気舎］

［中央公園内にある旧清瀬病院跡地の石碑］

公益財団法人結核予防会/結核研究所

結核予防会は１９３９(昭和１４)年内閣決定により設立された公益法人で、創立当初の目的は調査活動、総合的な研究、 啓蒙宣伝活動、結核予防職員の養成などがあり、関係官庁に調査研究成果を建議する役目も担っていました。

１９４３(昭和１８)年に結核研究所が現在地に移転すると、ＢＣＧ凍結乾燥ワクチンの開発を行い、接種に対する安全性を高めたほか、国民への普及啓発活動に尽力し、行政との協力連携のもとで結核予防対策に大きく貢献しました。

清瀬市は、面積が 10.19 ㎢、人口約７万４千人で、水と緑に恵まれた豊かな自然環境、都内１位の出荷量を誇るニンジンをはじめとする生鮮野菜を供給する都市農業、多くの医療・福祉施設とそれらに関連する単科大学など、近隣都市には見られない個性を持ち、都心から２５kmにあって程良い快適性と利便性を兼ねたコンパクトシティです。

東京都清瀬市企画部秘書広報課　　清瀬市中里五丁目 842 番地
Tel：042-492-5111(代表)　　Fax：042-491-8600
E-mail：kouhou@city.kiyose.lg.jp　　URL：http://www.city.kiyose.lg.jp/